

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|---|--------|--------|
| C-139 | 12-306 | 慶應義塾大学 |
| 題名（原題／訳） | | |
| Involvement of general practitioners in managing alcohol problems: a randomized controlled trial of a tailored improvement programme. アルコール問題のマネジメントのための一般開業医の参加：手直しされた改善プログラムの無作為比較試験 | | |
| 執筆者 | | |
| van Beurden I, Anderson P, Akkermans RP, Grol RP, Wensing M, Laurant MG. | | |
| 掲載誌 | | |
| Addiction. 2012 Sep;107(9):1601-11. doi: | | |
| キーワード | | |
| 一般診療医、アルコール問題、改善プログラム、 | | |
| 要 旨 | | |
| 目的： 危険飲酒および有害飲酒の予防への一般開業医（G P）の行動に関する手直しされた多面的な改善プログラムの効果を評価すること。改善プログラムは、G P、組織と患者を対象とする活動で構成される。G Pのニーズと態度に合わせてファシリテーターによる教育的な訓練セッションと訪問が調整された。 | | |
| 方法： デザイン；集団無作為比較試験。施設；オランダでのG P。 参加者；77施設のG P診療所；119人のG Pが参加した。6318人の患者のデータが利用できた。そのうちの765人（12.1%）はリスクをかかえていた。合計1502例の患者の電子カルテが検討された。主要調査項目は、スクリーニングとアドバイスを受け入れた適格患者の数であった。 | | |
| 結果： 手直しされたプログラムの部分への参加のためにG Pの参加を呼びかけることやG Pに参加を動機づけことが困難なため、プログラムを最適に実施することが困難な状況にある。両群のG Pが登録の後により関与したにもかかわらず、この改善は試験期間に弱まった。品質改善プログラムは行動の最初の改善を強化した、そして、12カ月後の追跡調査では有意ではないが、5%（スクリーニング）と2%（アドバイスをする）の平均改善率がえられた。 | | |
| 結論： 患者の飲酒に対する一般開業医の管理を改善することを目的とする手直しされた多面的なプログラムは、効果を示すのに失敗して、実行するのが困難であることが判明した。プライマリケアで有害および危険なアルコール消費の管理を改善するような集中的実施計画の使用を支持する証拠は得られなかった。 | | |